

日本の祭

～それぞれの悩み～

49期生

I テーマ設定の理由

大庭……TVで日本の祭の特集を見ていて、是非調べてみたいと思っていた。
中山……日本の祭りには興味をもっていた。そこへ、TVで『若草山事件』を知って、調べてみたいと思った。

→学校からの帰り道で話していると、偶然に、二人の意見があった。そして、さらに相談していると、意外にお金のかかることを知った。その上、1人より2人の方が、たくさんの資料が集まるので、共同研究にした。

II 研究方法

- (1) 事前調査 各都道府県に、手紙同封のアンケートを出し、アンケートに答えてもらう。
- (2) 文献調査 自力で集められるだけ、資料を集める。
- (3) 現地調査 実際に大阪天神祭に行き、屋台の御主人にインタビューをする。
- (4) 追加調査 アンケートの返ってこなかった都道府県には、電話で直接問い合わせる。

III 研究内容

日本には、おもしろい祭がたくさんある。日本三大祭りなどは、それらの頂点にたつものである。そこで僕達は、それらの祭りや、その悩みを調べ、悩みの解決法なども、考えていきたい。

1. ～祭紹介～

〈福岡県 祇園山笠〉

福岡県の中でも、有名な祭の1つ、博多祇園山笠。NHKの連続ドラマ、「走らんか!」の舞台にも使われる。「オッショイ、オッショイ」と、博多っ子のいせいよかけ声が響き、水はっぴに締め込み姿という勇ましいでたちの男達が、山笠をかつぐ。



▲写真1 勇壮な祇園山笠の若者達が駆け抜ける

〈城端曳山祭〉



▲写真2 曳山をひく若者衆

絢爛豪華、勇壮な祭は人々の心を楽しませる。そこで、実際に大阪天神祭へ行って、その祭の気分を味わってみたいと思います。

2. ～大阪天神祭 現地調査～

7月25日昼すぎから僕達は、現地調査を開始した。

大阪天神祭の舞台である桜之宮は、すでに露店がたくさん並んでいる。

人、人、人。とことん人が集まっている。

5時、囃子が聞こえてきた。川を見ると、船が川を進んでいる。船渡御、である。川の水に船の火があたって、美しい。

露店がにぎわってきた。そこで、二手に分かれて、露店の人にインタビューすることにした。(結果は後で)

僕達は桜之宮公園にいたから知らなかったが、4時ごろに、陸渡御が行われていたらしい。

陸渡御は、天満宮～市役所～天神橋のコースをたどり、船に乗ったらしい。総勢3000人といわれていたので、見てみたかった。

7時。再び桜之宮公園で一緒になると、その時、上空で凄惨な音。みると、花火が打ち上げられている。

天神祭の花火は、2000発あるらしい。大輪の花が空中で咲き、散っていく。観客達(その時が一番多かった。)の歓声を耳に、僕達は、桜之宮をあとにしたのだった。

神明宮の再建を記念して、祭礼のときに獅子舞、傘鉾、曳山がお供したことからこの、「城端曳山祭」ができた。

この祭の中で注目するのはやはり曳山だろう。約6メートルの高さと7トンの重さをもつ曳山。動かすには、若者30人が必要である。

→ 写真2

これが動くときしり音が出てくるワケだが、曳山をもっている町会は、「独特」の音を出すために苦心をはらっている。

「震災犠牲者にささげた」と、大阪天神祭の花火。調子元、大阪市北区天神橋三丁目、鉄砲店経営、立川嘉善さん(右)が「まろやか」と名付けた仕掛け花火を作った。二十五日の天神祭本宮の奉納花火大会で打ち上げ、夜空に鎮魂の思いをこめると、花火大会は、天神祭に合わせて約百年前から続いている恒例行事。立川さん



「被災者の心を和らげたい」と話す立川さん

▲図1 読売新聞より

鎮魂の花火

・インタビューの結果

冷しパイン	天津甘ぐり	パインチョコ	射的屋
始めてから30年	始めてから20年	始めてから50年	不明
今と昔だったら、昔の方がずっとにぎやかでした。が、今は人が少ないし、もうけもありません。	客の数は大人は変わらないが、子供の数はどんどんへってゆくという状態です。その上、さいふがかたいのでもうけも少ない……。神戸港がつぶれて輸入が大変だというのに……。	祭全体で見れば若い人が一番多いかね。平日の会社帰りに寄っていくからね。どっちかっていうと人はへってゆく方にあるかな？ 私とこのもうけがへって	天神祭の屋台の半分近くがアルバイトやから、なんも知らん。

まとめた上の表を見ればわかるとおり大阪天神祭は「人がへる」「さいふがかたいからもうからない」「輸入している所は、神戸港がダメになったので苦しい」のトリプルパンチをくらっているの、非常にきびしい状態だ。

そのきびしい状態を解決するにはどうしたらいいだろうか？ 各都道府県庁からアンケートが返ってきたのでそれを次にまとめてみました。

3. アンケートの結果

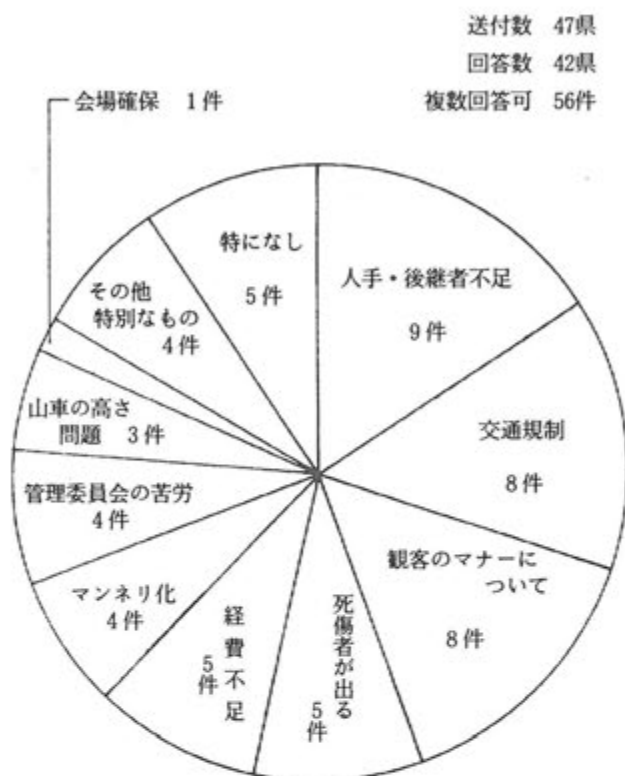
各都道府県庁にだしたアンケートは、1ヶ月をすぎた頃から、続々と返ってきました。アンケートには、3つの質問が書いてあります。

- ① その都道府県での有名な祭り。(3つ)
- ② その祭の由来・伝説など。
- ③ その祭の悩み(できれば理由や、その悩みの解決のためにとりくんでいることも書いてもらいたかった。)

ちなみに、一番最初に到着したのは滋賀県。つづいて富山、和歌山、岩手ときました。

返ってきた数は42通で、 $\frac{42}{48}$ 、つまり $\frac{7}{8}$ が返ってきたことになります。それらの悩みをグラフにしてみました。次のページを見て下さい。

▼表1 悩みの内容・内わけ



- 経費不足
→ 重要無形民俗文化財指定の祭又は貴重品・こわれものを使う祭。
- マンネリ化
→ 行列もの・踊りものの祭に多い。なぜなら、同じようなことをくりかえしくりかえしやって、それが毎年つづくからである。
- 管理委員会の苦勞
→ にぎやかで有名な祭（場所をとる祭）。これはまわりのようすの変化によっておこる問題。
- 山車の高さ問題
→ 山車（曳山）を使った祭にある問題。屋台の屋根や、電線などに山車が高いのでひっかかってしまうという悩み。
- 会場確保
→ にぎやかで有名、その上はでに競いあう祭。競いあうとどうしても場所がたくさん必要になる。
- 特になし
→ 一般的・平和なところで行う祭。

左のグラフの解説

- 人出後継者不足
→ 過疎化・都市化の進みすぎた祭に多い。若手がいらない又は会社づとめしかしない人たちが多いという祭。
- 交通規制
→ にぎやかで有名な祭に多い。例えば代行バスの運転・駐車場の確保など。
- 観客のマナーについて
→ にぎやかで有名な祭に多い。にぎやかなだけ、人が集まるから邪悪な心を持った人もくる。
- 死傷者が出る
→ はげしい動きのある祭に多い。例えば灘のけんか祭（兵庫）や岸和田だんじり祭（大阪）など。

各都道府県の祭りは、現在、悩みがたくさん出て来て、非常に苦しい状態であることがわかりました。では、その悩みを解決するためには、どのようなことをすればよいのでしょうか。名づけて「祭りの悩みの解決法」（そのままですが）次から書くことは、僕達が考えたものです。したがって変なところがあるかもしれませんが、これを読んで、みなさんが（はたまた政府が）祭りという、人々の文化の結晶について、考えて下さい。

IV 結論（考察）

1. 祭りの悩みの解決法

「山車の高さ問題」「人手・後継者不足」「死傷者が出る」「マンネリ化」「観客のマナー」について解決法を考えてみた。

問題1. 山車の高さ

江戸末期や明治など、山車の高さは最高潮であった。各地で、18mもある巨大な山車が曳き回されていた。

しかし、明治中期になると巨大山車はだんだんその姿を消していく。

電線が張りめぐらされたために、山車は、電柱よりも低い大きさになってしまうのである。迫力ある巨大山車は、過去のこと……。

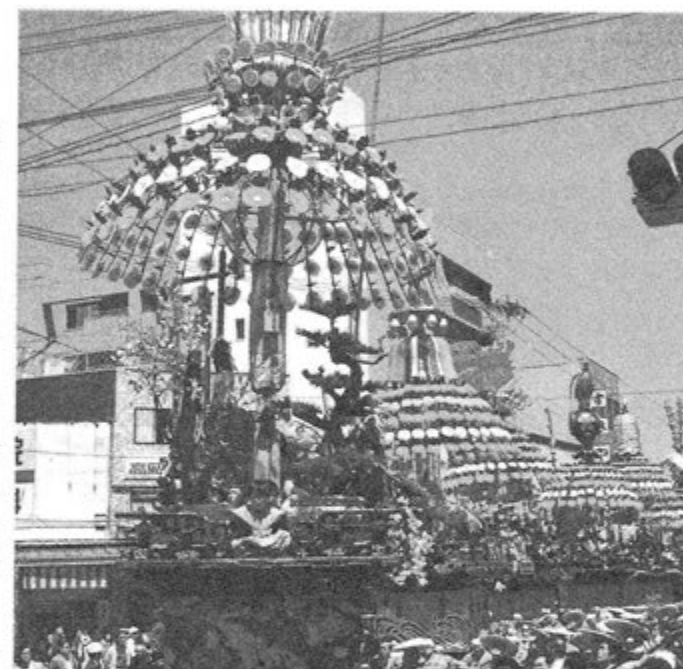
解決策

電柱は、電線を支えるのが主な役割だが、その他、いろいろな役割がある。

街路灯、信号、照明灯、標識、地名、電話ケーブルなどもつけられ、意外と役に立っているのである。でも邪魔である。そこで、地中層電線（地下ケーブル）というのを地下にひく、それが一番ではないか。

ただし、それだと地震が発生した場合、地下の電線はメチャクチャになり、修理には凄い費用と時間がかかる。

しかし、文明の発達によって失われたものを取り戻すには、さらに時間がかかる。ちなみに、先程紹介した城端曳山祭の悩みはこれである。



▲写真3 電線に届きそうな山車（富山御車山祭）

問題2. 人出・後継者不足

過疎化が進む所では祭を行う後継者・観客がへり、やがてその土地に続いていた祭はすたれてしまうはめになる。(実際にすたれた祭もある) そのため祭を続けようとする人達は、必死になってそれを食いとめようとしている。が、個人の力ではどうにもならず、大切な人材は都会へ出ていってしまうのが現状だ。

解決策

過疎化が進む所は少しでも近代化させる。または町おこし(村おこし)をする。これがもっとも早い解決である。

だが、近代化されたりすると、どうしても祭のモラルがくずれてゆく(と思う)。近代化させて祭を残すか、祭をあきらめてでも最後まで祭の形式をかえないでいくかというジレンマだ。ちなみに、先程の博多祇園山笠がこの悩みである。

問題3. 死傷者が出る

はげしい動きがあるという祭は死傷者がつきものである。例えば岸和田だんじり祭では、各町会が作っただんじりが市内をかけまわる。しかしスピードが出てくるとだんだんまがりきれなくなってきて、しまいには90°のカーブで横転してしまうのだ。この時一番端の人は見事だんじりの下じきにされる。上でおどっていた人はあっという間にほうり出される。下じきになった人はだんじりの重さ約7tにおしつぶされ、生命の保障はない。

解決策

方法はいくつかあるが、そのうちの3つをかくと、

その1…道路を作りなおしてカーブをなめらかにする。

その2…走りまわらずに歩いて動く。

その3…だんじりを軽量化させ、カーブをまがりやすいものに作りかえるなどがある。

しかし、1番目は費用がかかり、2番目はモラルがくずれてしまい、3番目は現在のだんじりがせっかく作られたのに文化がつぶれるはめになる。いずれにしても新たな悩みというものができてしまうのである。

問題4. マンネリ化

広島県三原やっさ祭という祭を例にあげるが、この祭はただ町中を踊り歩くというだけの、単調な祭(?)である。しかし、管理委員会の方で打開策を作って少しずつ実行している。

解決策

まず一番にしたのが、公園の中に屋台(夜店)を出したことである。これにより子供からの人気が集まった。次にしたのは……? まだ分からないが、管理委員会の方で何か考えていると思います。一番良いのは何か。新しいイベントを考え、若者をもっとたくさんあつめることだと思う。

問題5. 観客のマナー

観客には最近、マナーの悪い人がでてきている。やじをとばし、空き缶を捨てる。といって、その人達に、祭の主催者や管理委員会が文句を言うわけにもいかず、泣き寝入りの状態である。

年々悪くなる観客のマナーに、どう対応すればいいか。

解決策

簡単にいえばこれは、一人一人の意識の問題。つまり、祭の観客らそれぞれが、礼儀正しくしようとすれば、こんな悩みは楽に解決する。人類はみんな兄弟。一人一人が、このことを心がけてほしい。

青森県の、有名な祭「ねぶた祭」も、ハネトのマナーによって、管理委員会が苦勞している。最後は僕達の問題である。

2. その例

「山車の高さ問題」「人手・後継者不足」「死傷者が出る」「マンネリ化」「観客のマナー」の例



▲図2 日本地図は語る

V 総括（まとめ）

世界地図を見てほしい。世界の中の小さな日本。その日本の中の各地で、今日も祭りが行われている。そして、その祭にはどれも、様々な悩みがある。そして、その悩みを解決しようと必死でがんばっている人がある。なぜ、小さな日本の中の町（大阪なんて、世界地図では、ゴマのようなものだ）の祭りに、そこまで必死になってとりくむのだろうか。

日本の祭り
～それぞれの悩み

そう、日本の祭は、美しいものから勇壮なもの、激しいものから静かなものまで、たくさんものがある。そして、その一つ一つが、その時代を生きた人々の、文化の結晶なのである。

現代になってでてきたたくさんの悩み。

それらを解決させることが、これからの祭の課題なのである。

・参考文献

・祭り歳時記	同盟通信社	同盟通信社
・お祭りガイド	三一書房	渡辺良正
・近畿の祭	観光パンフレット	近畿府県観光委員会
・三重の祭	〃	三重県観光連盟
・岩手の旅	〃	社団法人 岩手県観光連盟
・島根県の祭と伝統芸能	〃	島根県観光連盟
・心の宴	磯石田大成社	古家輝雄
・各都道府県庁発行パンフレット	観光パンフレット	各都道府県庁
・各都道府県庁発行パンフレットのコピー	〃	〃
・阪急東宝グループ発行パンフレット	〃	阪急東宝グループ
・1995年朝日年鑑	朝日新聞社	朝日新聞社
・日本の祭	永谷園	永谷園